



心にゆとりスムーズ道路

指標 1-1 渋滞箇所数
指標 1-2 渋滞損失時間

都市部の中心に著しい渋滞が発生

渋滞箇所は県内で68箇所存在し、円滑な道路交通を阻害

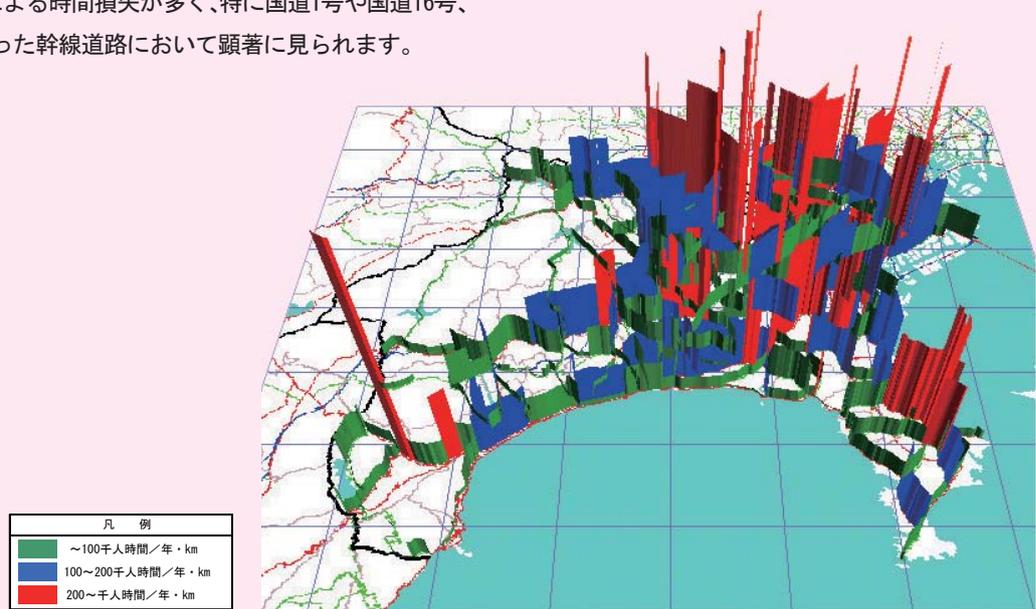
渋滞解消に向け、道路ネットワークの整備や交差点改良などをおこなっていますが、県内の幹線道路では、平日は横浜、川崎など都市部に58箇所、休日は箱根など観光地に10箇所の渋滞箇所が存在しています。

円滑な道路交通をめざし、主要渋滞ポイントの解消・緩和が課題となっています。



横浜市、川崎市を含む県東部に渋滞が集中

県東部で渋滞による時間損失が多く、特に国道1号や国道16号、国道246号といった幹線道路において顕著に見られます。



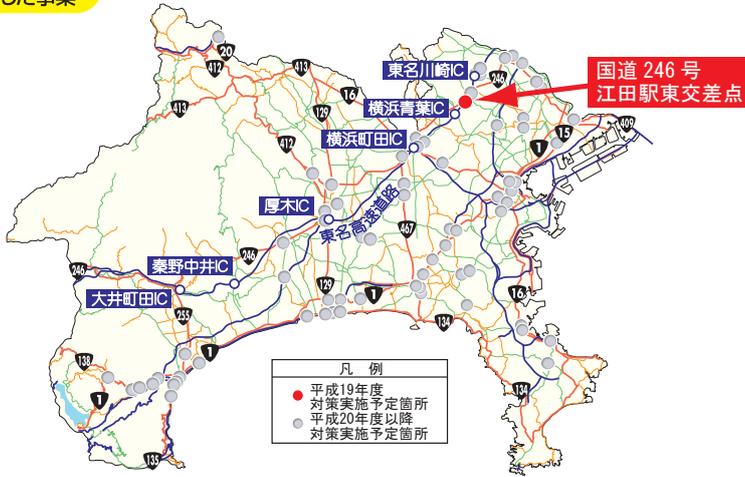
1kmあたり渋滞損失時間(平成19年度)

資料: プローブ旅行速度調査(平成19年度)



右折レーン延長により渋滞緩和！

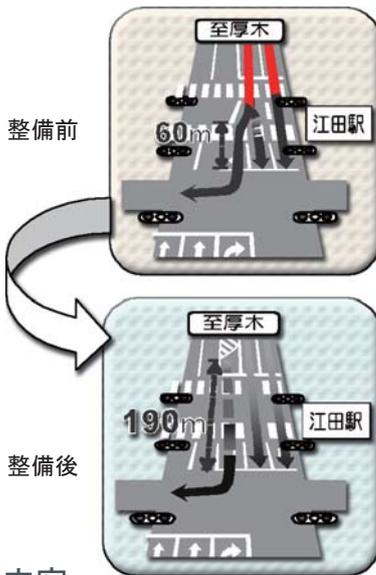
国道 246 号
江田駅東交差点
(横浜市青葉区)



平成19年度の渋滞対策実施箇所
資料：神奈川県道路協議会資料

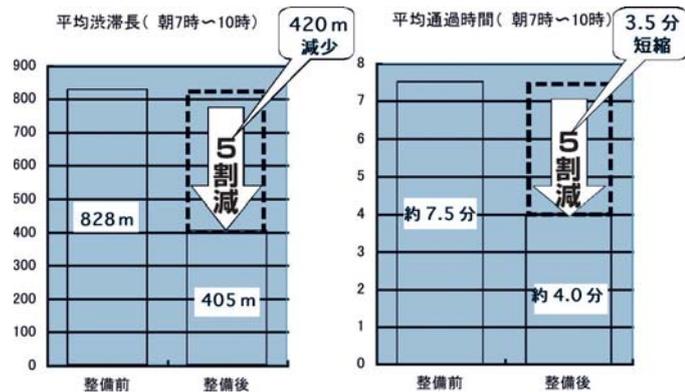


対策箇所の位置



対策内容

江田東交差点(上り)において、右折レーンを60m→190mに延長しました



※調査日【整備前】H19平日、休日
【整備後(3ヵ月後)】H20平日、休日
出典：国土交通省資料

対策の効果

上り線側朝ピーク時(7時~10時)において、渋滞長が400m以上減少し、交差点の通過時間は約3.5分短縮しました。



渋滞箇所数は1箇所減、渋滞損失時間は14百万人時間/年減少！

平成19年度の達成度評価

成果指標	H18年度現況値	H19年度目標値	H19年度実績値
1-1 渋滞箇所数 (H15年度現況値:72カ所)	69カ所	68カ所 【1カ所削減】	68カ所 【1カ所削減】
1-2 渋滞損失時間 (H15年度現況値:160百万人時間/年)	166百万人時間/年	165百万人時間/年 【0.7百万人時間/年減少】	152百万人時間/年 【14百万人時間/年】

平成16年度実施事業

小田原箱根道路が部分整備して、箱根口ICの渋滞が緩和（小田原箱根道路（バイパス）【箱根町】）



【整備前】



【整備後】

小田原箱根道路（バイパス）の部分整備による効果

- 渋滞解消したことによる経済効果は年間約15億円
- 小田原箱根道路周辺地域の交通事故発生件数が約1割減少
- CO2の年間排出量が約7%削減
- 箱根町の観光客が増加！

※整備前と整備1ヶ月後で比較
出典：国土交通省資料

平成17年度実施事業

国道246号新石川交差点が立体化され、渋滞が解消！（国道246号新石川交差点【横浜市】）



【整備前】



【整備後】

新石川立体開通による効果

- 渋滞解消したことによる経済効果は年間約20億円
- 迂回として利用されていた県道の大型車交通量が約2割減少
- 速度向上により排ガスが減少し、沿道環境が改善

※新石川立体整備1カ月前後で比較
出典：国土交通省資料

平成18年度実施事業

E T C専用レーンの増設で渋滞緩和(東名高速道路 東京料金所 【川崎市宮前区】)



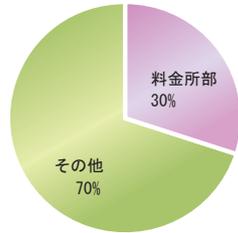
東京料金所の全景



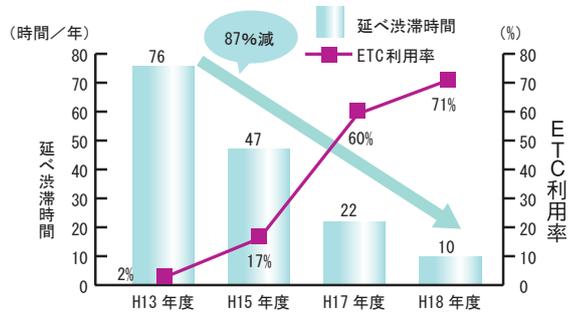
追加した ETC 専用レーン

■ 渋滞の約 3 割は料金所部で発生

料金所は支払のための一時停止により、高速道路において最も渋滞します。

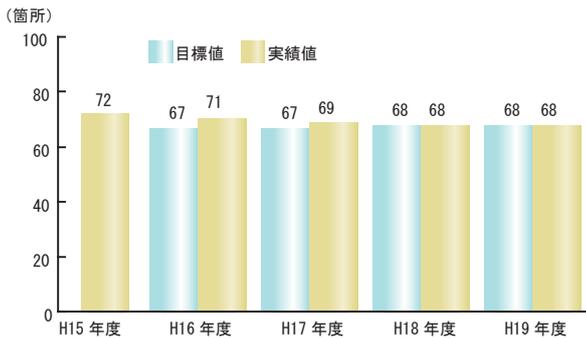


有料道路における渋滞発生状況
出典：東日本、中日本、西日本高速道路株式会社資料

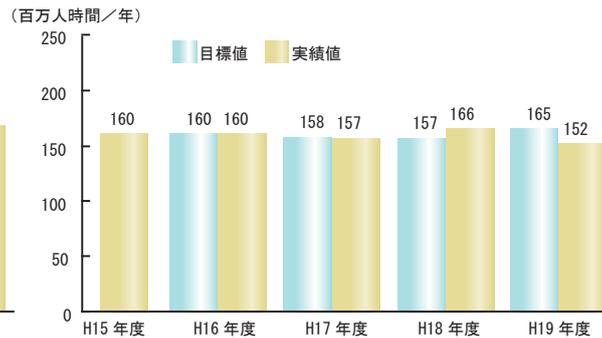


東京料金所の延べ渋滞時間の推移
出典：中日本高速道路株式会社資料

平成15年から渋滞箇所数は、4箇所削減！ 渋滞損失時間は、8百万人時間/年削減！



平成15年度からの渋滞箇所数の推移
資料：神奈川県道路協議会資料



平成15年度からの渋滞損失時間の推移
資料：神奈川県道路協議会資料

平成16年度からの達成度評価

成果指標		H15年度	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度
1-1 渋滞箇所数 単位：箇所	目標値	-	67	67	68	68
	実績値	72	71	69	69	68
1-1 渋滞損失時間 単位：百万人時間/年	目標値	-	160	158	157	165
	実績値	160	160	157	166	152

※平成18年度末時点での実績値は68箇所であったが、平成19年度初めに渋滞箇所の見直しを行った結果、69箇所になりました。